物理チャレンジ、化学グランプリで共に銅賞の快挙

合谷木諒君（左）と伊藤知輝君

100人の1人として

3年H組　合谷木諒

物理チャレンジ（第2チャレンジ）は、全国から100人、3泊4日の日程で筑波にて行われた。当初日程を聞いたときは理論問題と実験問題が5時間ずつということに驚いたが、実際はあっという間の10時間であった。

高校で学ぶ物理にベースを置きながら、大学での物理の世界を垣間見るような経験であった。結果については自分では好成績を出す自信はなかったのだが、銅賞という形で上位に食い込むことができ、とてもうれしかった。

また、4日間にわたって全国を勝ち抜いてきた強者たち、筑波大学の先輩方、NIMS（ニムス＝独立行政法人物質・材料研究機構）の研究者等と交流して、非常によい刺激を受けた。特に4日間寝食を共にした仲間たちとまた大学で会えるよう、日々の努力を大切にしたい。

【大会解説】

物理チャレンジとは、主に高校生以下の生徒を対象にした物理のコンテストです。予選である第1チャレンジ（6月）と全国大会である第2チャレンジ（8月）があり、それぞれ理論問題と実験問題が課され、全国大会で優秀な成績を収めた生徒には、翌年の国際物理オリンピックに出場する権利が与えられます。毎年5人が日本代表として出場し、好成績を残しています。

今年、本校からは3年生の合谷木諒君が全国大会へ進み、見事銅賞を獲得した。3年生ということで翌年の物理オリンピックへの出場とはなりませんでしたが、本県初の銅賞獲得という快挙に、学校中が大いに盛り上がりました。

化学の楽しさを再確認

3年H組　伊藤　知輝

今夏、化学好きが実を結び、化学グランプリで銅賞を獲得した。2次選考では高校化学の難度を超える問題が出題されるが、自己の知識を元に実験や考察をしていく過程で、全国との実力の差を痛感した。

また、一方で、最先端の研究や機器に触れ、全国の科学者の卵と交流する機会となり、化学の楽しさをあらためて実感することができた。

全国の精鋭と化学について語った経験は貴重な財産になると思う。将来彼らと同じ舞台で活躍する日を夢見て自強不息の精神で勉学に励みたい。

【大会解説】

化学グランプリ（旧称・全国高校化学グランプリ）は、「夢・化学―21」委員会、公益社団法人日本化学会の主催により1999年から行われています。

15回目となる今年の化学グランプリの1次選考は、マークシート式の試験で7月15日の海の日に全国61会場で実施され、過去最高の3481人が参加しました。さらに、1次選考を通過した参加者を対象に、8月23・24の両日に東北大学で2次選考が実施されました。2次選考は実験を伴う記述式の試験で、最終的に1次選考と2次選考の総合成績で評価されます。

化学グランプリで上位の成績を収めた高校2年生以下の生徒は、来年ベトナムで開催される第46回国際化学オリンピックの代表候補に推薦されます。

短歌甲子園最優秀作品賞　題「聞く」

夕焼けに飛行機雲のごと伸びる　フルートを聞く　階段半ば

自分らしく詠めた

2年D組　松岡　美紗

この度いただいた最優秀作品賞は、個人戦出場者が二首ずつ詠んだ短歌のうち、一般投票で選ばれた十二首から、審査員の評価が最も高かった作品に与えられるものです。自分の短歌が日本一になったという実感はまだ湧きませんが、この受賞を励みに今まで以上に良い歌を詠んでいきたいです。

今回の大会では団体戦も決勝の舞台へと進むことができました。惜しくも優勝を逃しましたが、最後まで自分たらしい作品を詠むことができ、悔いはありません。指導してくださった先輩方へ感謝してもしきれません。

寄贈図書

「獨楽庵切抜帖」6～10月号　冨野巳代治（昭7卒）

「秋高32会　平成24年9月7日（金）」　秋高32会（昭32卒）

「アメリカの保守とリベラル」　佐々木　毅（昭36卒）

「Q君とA先生の素朴で奥の深～い物理問答」　伊藤　一郎（昭37卒）

「山岳・音楽・文学」　川島　由夫（昭37卒）

「茶のない茶道」　岡村　時雄（昭41卒）

「小さな事業者の破産と借金整理」　高橋裕次郎（昭44卒）